



NEW STAFF

新人自己紹介

2018年8月16日着任

渡辺 大輝

わたなべ・ひろき

生命・錯体分子科学研究領域
生体分子機能研究部門 特任助教

2016年に金沢大学自然科学研究科にて博士（理学）を取得後、(株)生体分子計測研究所に就職し高速原子間力顕微鏡（高速AFM）の研究・開発を行ってきました。2018年8月より加藤晃一グループで特任助教として活動しております。着任後も高速AFMの多機能化に向けた開発と生体試料への応用に取り組んでいます。至らない点も多々あるとは思いますが、何卒宜しくお願い致します。

2018年9月1日着任

石山 修

いしやま・おさむ

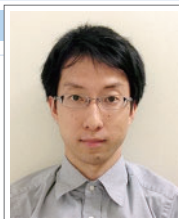
機器センター
特任研究員

2018年9月より機器センターにおいて、大学連携研究設備ネットワークマネージャー（特任研究員）としてお世話になっております。それ以前は、民間企業で技術開発に携わって参りました。日々のマネージャー業務を進める上では、もしドラ（もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら：岩崎夏海原作）を座右の書としています。今後ともよろしくお願い致します。

2018年10月1日着任

素川 靖司

すがわ・せいじ

光分子科学研究領域
光分子科学第二研究部門 助教

京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻博士課程修了後、同大学大学院、メリーランド大学カレッジパーク校、アメリカ国立標準技術研究所、科学技術振興機構さきがけでの研究活動を経て、平成30年10月より大森グループ助教として着任しました。これまでの冷却中性原子を用いた研究の経験を生かしながら、着任を機に新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

2018年10月1日着任

BHARTI, Vineet

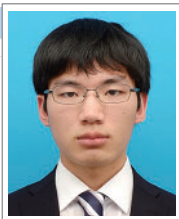
光分子科学研究領域
光分子科学第二研究部門 研究員

I did Ph.D. from IIT Roorkee, India in 2014. After my doctorate, I worked as a Post-Doctoral Fellow for four years at IISc, Bangalore, India and Research Fellow for short-term at NUS, Singapore. I recently joined Prof. Kenji Ohmori's group at IMS as a Post-Doctoral Fellow. Here, I am working with ultracold Rydberg gas experiments to investigate many-body dynamics by ultrafast coherent control. Joining Prof. Ohmori's group provides me a wonderful opportunity to experience the cutting edge research and I feel that it will help me significantly in my long term career.

2018年10月1日着任

木村 和典

きむら・かずのり

技術課 電子機器開発技術班
電子機器開発技術係 係員

4月に特任専門員として着任後、国立大学法人等職員採用試験を経て10月より係員としてお世話になっております。主に電子工作を担当する部署ではありますが、電気・電子回路以外にも測定機器制御用マイコンのプログラミングや筐体の設計・加工など、業務は多分野に亘ります。

まだまだ未熟な身ではありますが、皆様のお役に立てるよう励んで参ります。よろしくお願いいたします。

2018年11月1日着任

竹入 史隆

たけいり・ふみたか

物質分子科学研究領域
分子機能研究部門 助教

2018年11月より小林グループの助教としてお世話になっております。ヒドリドを含む無機固体においてイオン導電体や超伝導体を探しています。これまで一貫して物質探索に取り組んできましたが、ほとんどの場合、当初の狙いとは違うものに巡り会ってきました。分子研でも予想外の物質・現象との出会いを大事にしたいと思います。皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



2018年11月1日着任

千葉 史朱香

ちば・ふみか

理論・計算分子科学研究領域

理論分子科学第一研究部門 事務支援員



2018年11月より斉藤グループの事務支援員としてお世話になっております。ご縁あって日々研究に励んでいらっしゃる先生方を間近でサポートできることをとても嬉しく思っております。至らない点ばかりですが、まわりの方々の温かいご支援に助けられ、日々充実した気持ちで取り組ませて頂いております。自分自身も成長していけるよう精進していこうと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

覽古考新 16 | 1999年

三年前の秋頃、博士課程を途中でほっぽり出し、めでたく分子研に就職することができましたが、噂通りの忙しい研究所で、表題のファクター3が如実に分子研を物語っていました。毎日どこかでやってる研究会やセミナー、滞在している外国人研究者の数、土日も無視してしまう程の仕事量など、「何もかもが他の研究機関の3倍程度違うで」と毎日思っていました。物議を醸し出さない方がいいのですが、予算やポジションの流動性そして論文の数もファクター3近く違うのではないかと勝手に思っていました。要するに何に関しても、3倍多く、3倍早く、3倍高く、あたかもオリンピックの標語以上の実体を見てしまったわけです。良いにつけ悪いにつけ密度の濃い研究生生活と雑用生活を送ったので、相応の見返りのあった三年間でした。そんな様々な長所短所の中でも、横のつながりの良さには驚きました。私の在籍した理論研究系は複数のグループから成っておりますが、他のグループとの横の壁が無く、いつでもどこでも研究談義が自由に行われておりました。この環境が優れた仕事を生み出す一つの原因になっているのは間違い無いでしょう。私自身、他グループから多くのアドバイスを頂き、更には実験グループとの共同研究もさせていただきました。当然ながら面倒臭いことや辞易する雑用も多々ありましたが、そんな時も横のつながりの良さを遺憾なく発揮して、宴会の場で発散しました。公私共にこんなにも自由な雰囲気はなかなか得難いと今でも思っています。

分子研レターズ No.40「分子研を去るにあたり：とても濃い分子研（ファクター3の違い）」(1999年)
信定 克幸（北海道大学助手）